

各部位における腫瘍切除

● 口腔内腫瘍の切除



(図2-1)

ラウンド型ループ電極

シャフトの長さ：32mm
電極外径：6.4mm



【出力モードと出力】
BLEND：30～40
COAG：30～40



YouTube 動画閲覧

「4. 切開用電極による口腔内腫瘍の切除」で検索

症例解説：

口腔内の腫瘍は乳腺腫瘍、皮膚腫瘍、肥満細胞腫について4番目に多い腫瘍である。よく見られる腫瘍として、悪性腫瘍では、悪性黒色腫、扁平上皮癌、線維肉腫、良性腫瘍では歯肉腫（エプリス）がある。これらの腫瘍の性格は、それぞれ大きく異なり、見た目だけでは確定診断はできない。性格が大きく異なるゆえに、腫瘍によって手術の大きさや方法、他の治療法やインフォームドコンセントは大きく変わってくる。よって、口の中にしこりがあった場合、しっかりとした診断のもと、適切な治療を行わなければならない。

治療の流れ：

イソジンで患部およびその周辺部の皮膚を清潔にする。ラウンド型ループ電極を用いてBLENDモードで腫瘍をすくい取るように切除する。通電してから切除する組織に電極を当てて切り始めるとスムーズに切ることができる。ループは病変組織に引っかからないように動かす。取り残された病変はさらにループ電極で削り取る。(図2-1)

● 眼瞼腫瘍の切除



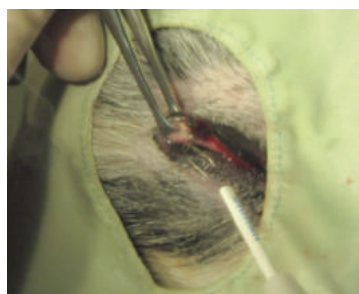
(図2-2)

エンパイアニードル電極

シャフトの長さ：20mm
電極外径：0.6mm



【出力モードと出力】
BLEND：20～30



(図2-3)

ラウンド型ループ電極

シャフトの長さ：32mm
電極外径：6.4mm



【出力モードと出力】
BLEND：20～30



YouTube 動画閲覧

「5. 切開用電極による皮膚腫瘍切除(獣医科)」で検索

症例解説：

眼瞼に発生する腫瘍にも単純なイボのような物から良性腫瘍や悪性腫瘍（癌）まで様々な新生物が発生する。眼瞼に腫瘍ができると、角膜を刺激するので涙や目ヤニが沢山出るようになる。本人が腫瘍を気にして目を擦ってしまい角膜に傷がつくこともある。眼瞼の腫瘍は高齢動物に多くみられる。腫瘍表面のみの処置では瞼の裏側にまで大きく浸潤してしまうこともある。また、悪性腫瘍（癌）であった場合は転移したりして手遅れになる場合もある。たとえ高齢といえどもしっかり話し合って検査状況に応じて適切な処置をすることが大切である。

治療法としては金属メスで切除する方法、鎮静下でレーザーなどで焼く方法、凍結療法などもある。金属メスでは出血が多く、表面だけをレーザーで蒸散させる方法は再発することもしばしばある。サージトロンの切除は熱変性が少ないので、眼球付近の処置も可能であり、止血力もあるので手術時間も短縮も可能である。

治療の流れ：

イソジンなどの消毒剤で患部およびその周辺部の皮膚を清潔にする。眼瞼腫瘍を鑷子でつまみ、軽く引っ張る。腫瘍の根元をエンパイアニードルもしくはループ電極を用いてBLENDモードで切除する。鑷子で腫瘍を引っ張り過ぎた状態で切除すると、陥没する可能性があるため注意が必要である。(図2-2) (図2-3)